



林市蔵が「方面委員制度」を創設して100年目にあたることを記念して、熊本県と熊本市民児協の共催による大会が熊本県立劇場で開催されました。午前9時20分県警察音楽隊の演奏の後、10時に県民児協の季平聖也副会長の開会宣言で始まりました。

県民児協主任児童委員部会の寺田公子会長の発声による民生委員児童委員信条・児童憲章唱和の後、県民児協の宮本武夫会長に続き、市民児協の野口勲会長が挨拶をされました。来賓の蒲島郁夫知事からは、「先ほど聞かせていただいた民生委員児童委員信条は、私が知事として活動するときの思いと一緒にです。4000人（民生委員）の蒲島知事が県内一円で活動していることを思えば、心強い」と祝辞をいただきました。

大西市長の祝辞は植松副市长により代読されました。その後、講演とシンポジウムの要旨があり、市民児協丸山透副会長の閉会のことばで終了しました。

その後、講演とシンポジウムの要旨を2ページに掲載しました。



第10号

平成30年7月発行
発行者 熊本市民生委員会
児童委員協議会会長 野口 勲

T860-0004
熊本県中央区新町2丁目4-27
熊本県社会福祉協議会内
☎096-288-2748



支えあう
住みよい社会
地域から

民生委員制度創設 100周年のご挨拶

熊本市民生委員
児童委員協議会
会長 野口 勲

こうした施策や課題への対応においては、常に住民の立場に立った寄り添う相談援助活動を展開し、関係団体や専門機関との連携や、協働を積極的に進め、要援護者を地域で支えるセーフティネットの活性化を図っていくことが重要です。民生委員・児童委員の目標である「誰もが安心して生活することができる地域社会づくり」の実現のため、100周年記念スローガン「支えあう 住みよい社会 地域から」のもと、民

生委員・児童委員のさらなる充実を取り組んでいきます。しかしながら、負担の拡大など解決すべき課題に直面しています。これらの現状や課題を踏まえ、民生委員・児童委員活動のさらなる発展、理解の促進に資するため、単位民生委員児童委員協議会の活動及び機能強化への支援も必要です。100周年を機に、先達が築かれた土台を踏みしめ、林市蔵先生の目に止まつた親子の姿を今一度思い浮かべ、現状にあつた民生委員・児童委員活動をみなさんと一緒にやつていきましょう。

方 面 委 員 制 度 創 設 100 周 年 を 迎 え、5月12日熊本県と熊本市の役員一同は、市内横手町にある林市蔵元大阪府知事のお墓参りをし、その後、民生委員・児童委員啓発活動の一環として、サンロード新市街から下通りアーケードを総勢230名でパレードいたしました。そして、5月15日県立劇場で1,800名（熊本県・熊本市）の記念式典を開催しました。

今日、熊本では地震災害による孤獨死、ひきこもり、再建のめどが立たない世帯をどうするかが喫緊の課題です。行政機関と連携して取り組んでいかなければなりません。貧困、介護離職、認知症やその家族への支援、さらには小中学校における不登校問題など様々な課題が山積しており、民生委員・児童委員の向き合るべき課題は、一層複雑化、多様化し

ています。そのような中、国においては地域で生活するあらゆる人々が役割を持ち、主体的に参加する「地域共生社会」の実現を目指し、福祉サービスの在り方の見直しが進められており、地域に根ざした活動を実践する民生委員・児童委員にたいして、さらに大きな期待が寄せられています。

講演 「災害に備えた福祉のまちづくりを進めるために」



藤井博志氏
関西学院大学人間福祉学部 教授
要介護の仕組みをはじめ、多くの施策が民生委員の活動から生まれた。民生委員は、相談に乗りながら必要な制度を見つけ出し、社会資源開発をしている凄い組織である。

障がい者には「心の問題」や「生活の厳しさ」などの「生き辛い人」も含まれる。このような「見えない障がい者」への気づきには見守りが有効であるが、専門職では対象が限られる。

「暮らしの困りごと」「私のつらさ」を話せる民生委員。寄り添う組織は必要である。

地域福祉の3大源流は、社会福祉協議会と共同募金と民生委員と言われるが、前者2つが戦後に出来たものであるのに比べ、民生委員は明治期に始まって100年になる。

要介護の仕組みをはじめ、多くの施策が民生委員の活動から生まれた。民生委員は、相談に乗りながら必要な制度を見つけ出し、社会資源開発をしている凄い組織である。



シンポジウム

コーディネーター…藤井教授（講演者と同じ）
シンポジスト…社会福祉法人学優会 理事長 平瀬 努 氏

全国民生委員児童委員連合会 会長 得能 金市 氏
天草市社会福祉協議会 常務理事 福本 壮一 氏
熊本日日新聞社 編集委員・論説委員 小多 崇 氏

シンポジストそれぞれの20分の発表を受け、最後にコーディネーターがまとめる形で進められました。

林市蔵の研究者である平瀬氏は、以下のような話をされました。

高齢者福祉には基礎が出来たが、これからは若者や子どもをしっかりと見ていく。

林市蔵の資料の多くは先の大戦で焼失した。そこで、林市蔵の身近にあつた人々の手記や記録を洗いなおした。母の愛情により芽生えた市蔵のヒューマニズムは、五高時代の恩師や人脈で花開いた。

大阪府知事時代には、青少年教育に実績のある小河滋次郎とう右腕がいて、無報酬での活動の基本設計が出来た。

民生委員の献身的活動は、社会の仕組みそのものへ、計り知れない影響を及ぼしてきた。

全員児連の会長である得能氏は富山から駆け付けられ、民児協の取り組みについて以下のよう話をされました。

天草市では校区ごとに子ども民生委員の活発な活動が行われている。29年度には、606名の子ども民生委員が高齢者訪問などを行い、地域の活性化に貢献した。

天草市では校区ごとに子ども民生委員の活発な活動が行われている。29年度には、606名の子ども民生委員が高齢者訪問などを行い、地域の活性化に貢献した。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

最後にコーディネーターから平瀬氏へ林市蔵人脈について質問がありました。小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

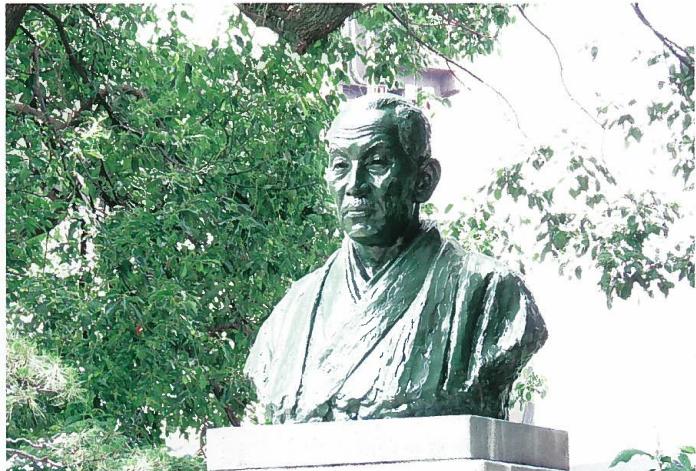
小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。

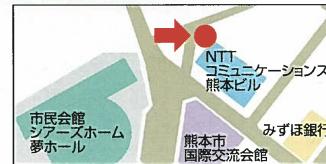
小多氏は新聞記者が見た地域福祉活動についての話をされました。



5月12日午前11時から、熊本県・熊本市民児協役員約30名で、長国寺様（熊本市西区横手町）ご協力のもと、林市蔵の墓参を行いました。

林 市蔵 胸像

（熊本市中央区花畠町）



5月12日午後2時から、新市街から下通の繁華街で、熊本県・熊本市民児協の主催で祝賀パレードが行われました。青地に白文字で「支えあう 住みよい社会 地域から」とスローガンが書かれた横断幕を先頭に、エンジのミニスカートに金のポンポンを持った九州学院中学高等学校 チアダンス部、済々黌高等学校 吹奏楽部の皆さんによる演奏に続き、県内一円約150名の民生委員・児童委員が続きました。パレードを囲むように黄色に赤文字のスローガンを染め抜いたのぼりがはためきました。

華やかな音楽と黄色いのぼりは、通りがかった人たちの目を引きつけました。

平成30年度
熊本市民生委員児童委員協議会会長会

■平成30年5月21日

ウエルパルくまもと

会議前に平成30年度熊本市ならびに熊本市社会福祉協議会職員紹介があり、民生委員児童委員信条・児童憲章唱和、民生委員の歌「花咲く郷土」を齊唱し開会しました。

冒頭、野口会長より「昨年7月からの民生委員制度創設100周年記念事業が15日県立劇場での記念大会にて無事終了しました。新たな気持ちで林市活動を引き続きお願いしたい。」との挨拶がありました。

その後、平成29年度の事業報告、一般会計決算、互助会会計決算の3議案が提案され拍手をもつて承認されました。

午後の研修会では、尚絅大学短期大学部幼児教育科准教授の増淵千保美先生により「子どもと家庭のくらしから乳幼児期の育ちを考える」という演題で講演がありました。我々の住む熊本も、貧困率が全国10位以内に入り、それに基づく子どもたちの環境の悪化や子育てのストレスなど、身近な問題としてこれから直面するだろうと予想されます。

子どもの発達段階や、子育ての現状をきちんと把握する大切さを改めて学びました。

主任児童委員部会からの報告

平成30年度主任児童部会全体会及び第1回研修会

■平成30年4月24日 パレア10階



個人情報の管理は慎重に!!

民生委員法には守秘義務が規定されています。
保有する情報には十分気を付けましょう!!

この節目の年に「街頭パレード」「記念式典」と、体験させていただき「今この時に活動の機会を得てることに良き偶然性を感じています。また、退任された方々の中にも永く委員として携わり、熱心に力を注がれた現役時の自身の活動を思い起こし、この記念の大会が開催されたことを感謝深く、捉えられた方も多数おられるのではないかと推察いたしました。

(広報委員 作本)

編集後記

今号は「方面委員制度」からの100周年記念熊本大会に関する記事を中心編集されました。これまで、多くの方々が委員活動に励まれ歴史を現在に繋がれています。

中央区会長会では、希望荘のバスで球磨郡多良木町へ出掛け、平成29年度2回目の研修を行いました。園児たちは、スクールバスで地元の小・中学校や支援学校に通学しながら、それぞれの状態による訓練を受けながら生活しています。

中央区会長会研修 ■平成30年3月28日 福祉型障害児入所施設・多良木学園視察

■平成30年3月28日

中央区会長会では、希望荘のバスで球磨郡多良木町へ出掛け、平成29年度2回目の研修を行いました。園児たちは、スクールバスで地元の小・中学校や支援学校に通学しながら、それぞれの状態による訓練を受けながら生活しています。

中央区会長会では、希望荘のバスで球磨郡多良木町へ出掛け、平成29年度2回目の研修を行いました。園児たちは、スクールバスで地元の小・中学校や支援学校に通学しながら、それぞれの状態による訓練を受けながら生活しています。